

平成 21 年度 物価指数研究会（第 1 回）議事概要

- 1 日 時** 平成22年 3 月 26 日（金） 16:00～17:10
- 2 場 所** 総務省 統計局 6 階特別会議室（617号室）
- 3 議 題** (1－1) 基準改定計画について
(1－2) 民営家賃の作成方法について
(1－3) 持家の帰属家賃の推計方法の見直しについて
(2) その他
- 4 出席者** (委 員) 溝口座長, 伊藤委員, 宇南山委員, 樋田委員, 舟岡委員, 美添委員
(統計局) 川崎局長, 駒形部長, 千野調査企画課長, 高見調査企画課統計調査研究
官, 大貫消費統計課長, 永島物価統計室長ほか
- 5 配布資料** 書類番号 1 消費者物価指数平成22年（2010年）基準改定計画（骨子）
書類番号 1 別紙1 持家の帰属家賃の推計方法の見直しについて（案）
書類番号 1 別紙2 民営家賃の作成方法について

6 説明要旨

議題(1-1)

消費者物価指数の平成22年（2010年）基準の改正内容について、書類番号 1 「消費者物価指数平成22年（2010年）基準改定計画（骨子）」に従って説明した。

議題(1-2)

平成22年基準改定計画の民営家賃指数作成方法について、保合処理の導入と17年基準における家賃4品目を1品目へ統合の2点の変更を、「書類番号 1 別紙 2」を参考に説明した。

議題(1-3)

持家の帰属家賃の推計方法の見直しについて、「書類番号 1 別紙 1」に沿って説明した。

7 主な意見等

議題(1-1)

・中身はこれでよいと思うが、『5 品質調整』について、他の項目とあわせて品質調整『の精緻化』などに入れるべきではないか。また『3 モデル式による指数作成に係る見直し』について、具体的にモデル式の説明があった方がよいと思う。

『6 公表系列及び分類項目の見直し』の廃止について、それぞれ理由が欲しい。標準世帯指数を廃止するのはおかしいと思われても困ると思うので、一般の人にもわかるように工夫が欲しい
→今後のスケジュールとして、本日の議論を踏まえて3ヶ月間省内手続きなどを経た後、7月以降にパブリックコメント及び統計委員会での審議を予定している。その段階において、文書審査、整理等を行い精緻化したいと考えている。

・確認であるが、この書類番号 1 は公表資料そのものではなく研究会用であり、公表資料はまた別途作成するということがよいか。

→然り。この資料は本研究会における資料として公開するが、より正式に世の中に通っていく資料については、より精緻に文章の審査も行って、3ヶ月後くらいに公表する。その際には、御指摘いただいた意見を踏まえたいと思う。

→この研究会は、文章の細かいところまで審議する性格のものではないと思うので、文章については一任したいと思う。研究会としては、パブリックコメントではもう少しわかりやすい説明が欲しいという意見があったということとしたい。

- ・『世帯主60歳以上の無職世帯指数』の新規追加について、60歳以上というのは、家計調査の結果表章がこのようであるからやむを得ない措置だという理解でよろしいか。

→然り。

議題(1-2)

(保合処理の導入について)

- ・動きを細かく見ると気になるころはある。

→ご指摘のとおり、これで完全な手法になるわけではなく、残された課題はあるが、とりあえず平成22年基準はこのような方法で作成したい。今後、改良すべきところがあれば適宜対応する。

- ・空き家になったことによる影響が緩和されている。現段階ではこの方法がベストではないか。

(4品目から1品目への統合について)

- ・公表は1品目で、計算は4品目という記載がない。また、「どうしてヘドニックを使わないか？」という問いに対する想定回答を作成しておく必要がある。日銀からよく聞かれる。

- ・「次回」という表現がわかりづらい。

→ご指摘のとおり、計算の方法を変えるわけではない。小売物価統計調査の家賃調査地区は、平成22年国勢調査の新しいデータに基づき、この基準の適用期間内にも設定替えを行って、状況が変わる。具体的には、22年基準改定後、25年に家賃調査地区の変更が予定されている。その際、指数においても市町村内の家賃区分の構成比を見直せる形に改めたいということが、この統合の趣旨。

議題(1-3)

- ・表10-1の従属変数は単位面積あたりの価格か？

→そうである。Box-Cox係数に1を足せば、従前と同じモデル式による結果である。

- ・今回の推計では $\lambda=0, 1/2, 1$ のパラメータを用いているが、 $-\infty$ から $+\infty$ までとつてもよく、実際、 $\lambda=-1/2$ や $\lambda=-1$ の結果が良いときがある。時間のあるときに検討してみてもどうか。

- ・ $\ln y$ と $\ln S$ の両方をBox-Cox変換して、2つの λ を導出するのがより一般的である。

- ・AICは時系列解析には有効だが、重回帰分析におけるAICには批判の声も多い。

・全部にマンパワーを費やすのではなく、必要なところだけを重点的に作業した方が効率的である。EDAの手法を用いて、両辺の変数の再表現をみることで変数変換を容易に行える。

- ・5ページに、「建て方と構造を独立に考えることにより」とあるが、「独立」ではなく「加法的」という表現を用いるべきである。

・水洗トイレありから分析を始めているが、東京都区部で水洗トイレなしは非常に古い住宅である。それよりも、時代に合った設備を新たな変数として導入してはどうか。

→水洗トイレは結果として入れても入れなくてもあまり変わらなかったなので、継続性を重視し、前回同様、変数に入れた。新たな変数については、高齢者等のための設備等などが住宅・土地統計調査からはとれるが、全国消費実態調査にない調査項目は使用できないので、おのずと変数は限られてしまう。

以上